

松田町立松田小学校

研究テーマ：みんなで考え、みんなで深める ～対話的な学びを通して～

1 実践の目的

学校教育目標「自分や仲間のよさを生かして、たくましく生きる子どもの育成」を達成するため、今年度の研究テーマを次のように設定した。

みんなで考え、みんなで深める
～対話的な学びを通して～

今年度は、令和6年度の成果を踏まえ、より児童の思考の深まりをめざしたいという教員の意見により、研究テーマの一部である「みんなが分かる」を「みんなで深める」へと変更した。昨年度に引き続き、校内研究の取組を日々の授業の中で再現性のあるものにするに重きをおき実践や協議を行ってきた。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

校内研究を進めるにあたり、学校長、教頭、教務主任、研究主任、研究推進委員で研究推進委員会を組織した。今年度は研究推進委員を低学年・中学年・高学年・支援学級から1名ずつとしたことで、各学年団で研究を進められる体制となった。年度初めに、昨年度の反省を基に研究推進委員会で、今年度の研究テーマや方向性を話し合い、校内研究全体会の場で提案、決定した。研究授業は、各学年と支援学級の1回ずつの提案で全7回とし、全て全員参加で実施した。指導案検討は学年団で行い、系統性を意識できるようにした。支援学級については、今年度より支援学級担任と研究推進委員で指導案検討

を行い、様々な視点を取り入れられるよう設定した。

(2) 研究授業・研究協議の様子

今年度、体育科・道徳科・自立活動を窓口とし研究授業を実施した。講師として、体育科は、横浜国立大学教育学部梅澤秋久教授、道徳科は、筑波大学付属小学校加藤宣行教諭、自立活動は、北里大学石坂郁代非常勤講師に指導助言と教員向けの講話を依頼した。各回の研究協議では、全教員が「自分の授業にどう生かすか」という視点を常に意識して協議を行った。昨年度の成果を生かし授業提案を行い、これまでの学びを生かした授業となった。加えて、研究協議の中では、各教員の日々の取り組みも交えた協議ができている様子が見られた。

3 実践の成果と課題

(1) 教員の変容

年間反省では、授業者だけでなく、多数の教員から授業改善ができたという意見があがった。研究テーマの土台となるアセスメントを基にした環境設定への意識が、今年度の着任者も含め、高まったという意見があがった。また、体育・道徳・自立活動の複数教科を窓口としたことで、教員の教材研究、アセスメントを基にした環境設定は、どの教科においても重要なことであるということが再度確認できた。さらに、教師による知識・技能の教え込みではなく、教師の問いにより、いかに児童から考えや思いを引き出すことができるかという点の重要性を、各講師の講話から共通理解することができた。今年

度、体育・道徳においては、研究主任と共に教科主任が指導方法の共有という点で力を発揮した。これにより組織的に校内研究を進めることができたという点においても成果がある。一方で、教員の異動がある中で研究の成果を次年度へどう引き継いでいくかという点においては課題が残る。しかしながら、年度末反省では、前向きな改善案が各教員から出された。これらを次年度に生かしたい。

(2) 児童の変容

アンケートでは、どの設問においても、肯定的な選択をした児童の割合が1学期から2学期にかけて上昇した。

①先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。		
	1学期	2学期
そう思う	47%	51%
どちらかといえばそう思う	31%	32%

②授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。		
	1学期	2学期
そう思う	29%	30%
どちらかといえばそう思う	43%	46%

③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		
	1学期	2学期
そう思う	33%	31%
どちらかといえばそう思う	39%	43%

特に①「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。」の設問に関しては、2学期には8割の児童が教員からよいところを認められていると感じている。さらに、1学期よりも2学期に肯定的な意見が5ポイント上昇したことから、より多くの児童にとって、安心して学ぶ土台がつけられていると考える。

②「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」

の設問では、1学期から2学期にかけて肯定的な意見が4ポイント上昇した。このことから、課題解決に向けて、より児童の主体性が出てきていることが分かる。

③「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の設問の結果からは、7割近くの児童が次時への連続する学びを意識して学習を深めることができていたことが分かった。1時間ごとの授業の深まりという点においては、②の結果による児童の主体性の高まりから、研究テーマである「みんなで深める」に近づいていると考える。一方で、単元のつながりの中での児童の学びの連続性と深まりの意識は、2学期には2ポイント上昇したものの、全体として8割は超えていない。次年度に向けて改善策を検討したい。

4 今後の展開

次年度も、各教員が校内研究の学びを日々の授業に生かすことを重視し、組織的に授業改善を行っていく。また、研究主任、研究推進委員、教科主任、を中心に進める組織的な体制をより一層生かしていきたい。具体的には、体育科では単元の中での思考の深まりを意識し、教師の問いにより児童の学びを深めるという点に重きを置き、指導力の向上をめざす。道徳科においては、内容項目のゆるやかな系統性を意識できるよう、児童の学びの足跡となる道徳ノートに力を入れた指導力の向上をめざす。自立活動においては、情緒面での支援について、教師のスキルアップをめざし、校内研究を通して応用行動分析に関する学びを深めたいと考えている。